

(川内北) 令和コミュニティトーク

日 時：令和7年7月17日（木） 14：00～15：27

場 所：消防局

出席者

市：田中市長、古川副市長、掛田副市長、未来政策部長、秘書広報課長、
コミュニティ課長

地域：川内北中エリアの3地区コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民3
2人

(合計54人の参加)

1 地区振興計画について

【亀山地区】

4月に総会を実施した。

6月には小学5年生を対象にもち米の植え付け体験を行った。亀山は、餅つきをしてだんごや餅を作るイベントをしていることが知れ渡っており、そのためのそのためのもち米であり、今年も順調に生育している。

7月10日には河川愛護作業を実施した。亀山小学校から小倉の須崎橋付近まで、ボランティアによる清掃作業を1時間半程度行った。今年は非常に雨が少なかったため漂流物も少なかったこと、のぼり旗を立て一生懸命に清掃活動をしている姿を見てマナーが良くなったのか、ごみが少なかった印象を受けた。清掃終了後、恒例のそうめん流しをコミュニティセンターで行い、割った竹にそうめんを流し、参加者が喜んで食べてくれていた。

8月には、AEDの講習会に17ある自主学級の会長、副会長、部会長が参加予定である。

10月には、毎年120名程の参加がある亀っこ杯のグランドゴルフ大会、文化祭&かかし祭りを実施予定である。

11月は、毎年恒例の新田神社の新嘗祭ということで、清掃活動を行っている。以前は自治会員にも参加していただいていたが、高齢化により参加が難しくなってしまったため、現在は川内北中学生30～40名に参加していただいている。また、以前は亀山でも夏祭りも実施していたが、新型コロナウイルスや猛暑の影響により現在は夏祭りを実施していない。その代わりに、収穫祭を大々的に実施している。12月の第1日曜日に、中学生が主体となり、6俵分の餅つきをしていただいている。

最後に、その他にも幼稚園とか、小学生のイベントもいろいろと考えている。亀山地区では子どもからお年寄りまで参加できるような様々なイベントを企画している。特に小学生や幼稚園児を集めることによって、保護者やお年寄りも来てくれるため、非常に活気に溢れ、盛況に行っている。

【可愛地区】

令和元年に組織の見直しを行った。7つの部制に変更し、それぞれの部が第5期地区振興計画を基に活発に活動をしている。

まず、令和6年度の取組内容についてである。

川内川の河川敷を活用したまちづくりの一環として「第3回リバーサイドビューエの」を開催したところ、1,500名に参加していただくことができた。

12月7・8日の2日間に渡り、太平橋設立150周年記念事業を行った。12月7日には、中央公民館で「大小路の歴史を訪ねて」と題して丸目直樹氏による薩摩街道の歴史と大小路の今昔を講演していただいた。また、羽坂光昭氏による「太平橋150年のドラマ」と題して、太平橋の150年の歴史を詳しく講演いただいた。可愛地区の歴史を紐解く、心に響くすばらしいものだったと感じた。12月8日は、第11回「いにし可愛のまちあるき」を行い、100名程の参加者いただき、小学生が語り部となって案内をしてくれたことが大変好評であった。

ICT導入については、計画通りに進んでおり、鹿児島大学に協力をいただきイベント資料のデータ化を行った。なお、住民や関係者への説明会も実施している。

次に、令和7年度に取り組むことについてである。新しいコミュニティセンターの開設に伴い、若者が主体となって企画・運営する「可愛子ども食堂（仮称）」の開設に取り組みたい。なお、川内北中学校、川内高校の協力をいただき、地域探究生の募集を行っている。

また、情報通信技術の向上として、昨年度からICT導入に力を入れて取り組んでおり、コアメンバーや関係者の説明を経て、地域企業への参加呼びかけ及び正式契約を行い、令和8年4月の正式にリリース、初期運用を目指している。

【育英地区】

愛宕山は標高150mで、「薩摩川内市ふるさと景観100選マップ」に選ばれている中郷上池と下池の周辺に位置している。また、愛宕山には京都を本山とし全国各地に散在している火の神として崇められている愛宕神社がある。

育英地区の第5期地区振興計画である「自然と文化に親しみ 誰もが安心して快適に暮らせる育英」の一環として毎月第一日曜日に愛宕山登山道の整備を実施している。登山道の急斜面の箇所への階段やロープ、杖を設置するなど、誰でも気軽に登山できるように工夫している。なお、頂上にはベンチ、展望台、掲示板、地図などを整備し、参加者に楽しんでいただけるようにもしている。また、健康体育部と青少年育成部が共同で開催するウォーキング大会に愛宕山をコースに加え、食育改善推進員によるぜんざいの提供もあり地区の一大イベントとして定着しつつある。

取り組みのきっかけは、愛宕山参道を歩いた地区の役員が荒れ果てた参道を目にし、昔のような状態を取り戻したいと相談したことに始まり、協議会で検討のうえ、整備事業として愛好家を中心となって活動を開始したことによる。

登山を通じて中郷の景色に親しみを持っていただき、健康づくりや魅力ある場所としての価値を高めていけるように整備していきたい。また、頂上でのゲーム、短歌、俳句などを取り入れ、既存のイベントに新たな魅力を加えていきたい。課題としては、愛好家だけでなく、誰もが再び登りたくなるような魅力づくりに地域全体で取り組むことである。

今後の展望としては、愛宕山を育英地区のシンボルとし、市民の憩いの場として活用していきたい。そのために、愛宕山クラブの活動を支援し、魅力あるイベントの実施や登山道の整備、頂上からの景観向上のための樹木伐採などを進めていく。特に小中学生の参加を促進し、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供することで、地域への理解と連携を深めるきっかけづくりにしたい。

市長コメント

新しい地区振興計画の活動報告をしていただいた。コミュニティにおける声かけ、

見守り、美化活動、イベント開催、防災など地道に多岐に渡る活動を展開されていることに敬意を表したい。自分の所属する地区の活動の振り返り、近隣地区の活動状況を共有できることは大変重要な機会であり、市としても非常に貴重な機会であるので、行政執行の参考としたい。

亀山地区では、様々なイベントを実施されていた。3地区とも人口規模が大きい地区であるが、子どもたちを巻き込んだ多世代型のイベントの展開がこれからの48地区の活動を長続きさせる一つの方法であると思う。

可愛地区においては、大小路の川内川河川敷が利用可能となったことにより、地区内外の方々が集まるイベントの開催がしやすくなり、新たな賑わいが生まれてきたと感じている。また、可愛地区コミュニティセンターの新設については、本年度中に完成予定である。コミュニティセンターに併設して消防団の詰所を併設し、不登校支援のスマイルルームも併設予定である。また、ICTの導入にも尽力されており、DX化が推進されている現代において、地区や自治会でも可能な分野から導入をしていただきたい。

育英地区については、愛宕山の登山道整備を毎月されているとのことであった。子どもたちの健全育成という目的もあり、人口規模の大小を問わず、多世代が一緒に集まってできる活動が人も集まり、楽しく活動できるのではないかと思う。また、地区内にある自然や史跡などの資源を再発見して活かしてということが今後のコミュニティ活動の基本になる。

※6月24日に発生した甑島での大雨について

6月24日甑島の里地区北側で集中豪雨が発生し、深夜0時から3時にかけて、1時間に130mm、3時間で300mmを記録した。これにより、床上浸水7戸、床下浸水17戸、事業所2カ所に被害が発生した。市としても気象庁の情報を基に早期の情報提供に努めているが、市民の皆さまも避難先や声かけが必要な方の把握など、日頃から防災対策を行っていただきたい。近年は100mm以上の豪雨が頻発しており、梅雨明け後も台風もあるため、コミュニティ会長や自治会長を中心に、防災意識の向上への御理解と御協力をお願いしたい。

2 市政の動向について

(1) 主な動き

令和6年10月12日が市誕生20周年であった。

10月13日には、これまでの市民運動会をリニューアルしてスポーツフェスタとして初開催した。これまでの地区対抗での競技形式での実施を、子どもたちも参加できるようにフェスタ形式での開催に見直したところ、多数の参加があった。

令和7年2月14日には12年ぶりに国主催による原子力総合防災訓練を実施した。

3月19日に天大橋における九州初の国による修繕代行事業が完了した。

4月1日には鹿島町に甑ミュージアムがオープンした。なお、世界で4例目となる恐竜の化石の発見についても公表している。

また、鹿児島県内で初めて女性の消防団長が誕生した。なお、消防団員の確保にも苦勞されていると思う。県内43市町村で消防団があり、この中で11市町村に外国人が正団員として所属している。性別、年齢、国籍を問わず、できる範囲で、外国人の方も登用していただきたい。

また、北薩 3 消防本部指令センターの運用を開始した。

また、就農者育成拠点施設「薩摩川内市アグリセンター」をオープンした。

5 月 5 日には、子どもの日フェスタを開催し、初めてエア遊具や肥薩おれんじ鉄道トレインを走らせたりしたところ、4,000 人の参加があった。

5 月 11 日には、国、県、市町合同の川内川総合水防演習を 7 年ぶりに実施した。

(2) 令和 6 年度当初予算のポイント

一般会計で 591 億 2,000 万円、過去最大であった。子ども・子育て、薩摩川内スマイルアクション 50、コミュニティ・市民活動、産業人材確保・移住定住、SDG・カーボンニュートラル、DX の 6 項目に力点を置いて取り組む。

子ども・子育てにおいては、当初予算の 19%にあたる 110 億円を措置している。例えば、18 歳以下の子ども医療費の窓口負担を 4 月からゼロにするために約 4 億を措置している。また、学校給食費については総経費約 5 億円のうち、物価高騰に伴う食材費上昇分の 1 億円程度を市が補助している。

薩摩川内スマイルアクション 50 は、子どもたちの笑顔があふれるようなイベント、まちづくりをしたいと考え、予算を充てている。例えば、子ども向けイベントや木育活動として木のおもちゃの配布、音楽祭の開催など、世代を超えた交流を促進している。また、非常に暑い日が続くことから約 100 施設を涼みスポットに指定し、その施設に特に用がなくても涼むことができる「涼みスポット設置促進事業」を今年度から実施し、100 箇所以上の施設に協力いただいている。

コミュニティ・市民活動では、ふるさと納税を活用した地区コミュニティ協議会への支援を開始し、転入・転居者が自治会に加入した場合 SDGs ポイント助成も拡充している。

人材確保策としては、市内出身もしくは、市内の高等学校を卒業して市内企業に就職した若者への 10 万円分のポイント支給を行っている。また、市内に住み、市内企業に就職した場合に最大 300 万円の奨学金返還支援も行い、保育士・就農者・林業大学校生への補助制度を新設している。

環境分野では、プラスチック製品 18 品目の分別回収を開始し、SDGs・カーボンニュートラルの取組を強化している。

DX 化では、デジタル広報の導入や消防団活動支援アプリを導入し、業務効率化を図っている。

電源立地地域対策交付金等事業では、川内原子力発電所 1・2 号機の運転延長に伴い、毎年 1 億円ずつ交付されるため、学校給食費、公園整備、川内港の北側の道路整備に充てる。さらに、国から県に対し 25 億円交付されるが、そのうちの約半分 12 億 4,100 万円を薩摩川内市に交付されることになっている。これは、令和 12 年度までに子育て支援事業や道路整備事業に活用予定である。使用済核燃料税による増収分 2,000 万円についても子育て支援、市民活動などに充当している。

(3) 薩摩川内 2034 ビジョン（第 3 次薩摩川内総合計画）

令和 7 年度から 10 年間のまちづくりの指針となる「薩摩川内 2034 ビジョン（第 3 次薩摩川内市総合計画）」に基づくまちづくりがスタートした。

(4) 薩摩川内スマイルアクション 50

予算措置と連動させながら 50 事業を 4 年間で実施することとしている。

(5) コミュニティ・自治会活性化策

ふるさと納税について、個人版・企業版共に、地区コミュニティ協議会へ還元する仕組みによる支援を行っている。

地区コミュニティ協議会による連携事業として、「ハッピー七夕会」や「ひなまつりスタンプラリー」などが実施されている。

自治会再編では、令和6年度に甕島の青瀬地区で3自治会が合併し、令和7年度には市比野地区で7自治会、樋脇地区で4自治会が合併するなど、再編が進んでいる。今後、合併する際には、これらの事例を参考としていただきたい。

地区コミュニティ協議会への支援として、希望する地区に市職員を「地区サポーター」として配置している。連絡役として情報提供や支援を行っているため、御活用いただきたい。

(6) 国県等の事業動向

国・県と連携したインフラ整備が進められている。

川内港では、京泊において唐浜埠頭の整備が進行中である。令和7年度末に耐震強化岸壁が完成予定であり、この場所で200tのガントリークレーンを活用して輸出入が始まる。

川内火力発電所跡地におけるサーキュラーパーク九州の活用について。昨年8月に、サーキュラーエコノミーに関して総理官邸で車座対話があった。7人のパネリストが参加し、火力発電所跡地の活用について15分程度、岸田総理に説明したところである。

川内港久見崎未来ゾーンのことについて。分譲用地が16haあるが、ほぼ全てが分場に関して協議済みであり、今後立地が行われていく予定である。

南九州西回り自動車道について。水引から湯田、西方、阿久根方面に工事と用地買収が進んでいる。

川内宮之城道路構想について。川内港から南九州西回り自動車道を経由し、北薩横断道路までを結ぶ高規格道路を陳情しており、8月2日には決起大会を実施予定である。

※令和6年度令和コミュニティトークの意見の進捗状況について

まず、熱中症対策としての休憩場の設置についてである。各地区コミュニティセンターにも御理解と御賛同をいただきながら、その施設に特に用事がなくても、誰でも利用できる「涼みスポット」という形で設置させていただいたところである。

次に、道路愛護作業の報告書に関して、写真などの提出書類をペーパーレス化できないかとの意見について。令和7年度から、道路愛護や河川愛護作業の報告書や写真などの提出書類をメールによる提出も可能としたところである。。

最後に、消防団の消防操法大会に代わる訓練についてである。消防操法大会は、訓練時間の確保及び団員確保が困難になってきていたことから、令和6年度から中止している。それに代わり、全団員を対象に火災対応訓練を基本訓練から現場想定訓練まで2回実施している。令和7年度においても、消防団全体の火災対応能力の維持・強化のため、年2回の火災対応訓練を実施することとし、川内中央北分団は4月1日に1回目の訓練を行った。

3 事前提出議題

議題1 亀山地区内の安全対策について【亀山地区】

まず、五代郵便局前の県道において横断歩道、標識、信号機を設置していただきたい。

次に、亀山地区コミュニティセンターは災害時の詰所として利用されているため、災害時の停電対策として、平時から太陽光発電で発電した電力を蓄電池にストックしておき、停電した際に活用することができるよう、蓄電池の設置をお願いしたい。

回答 まず、県道である主要地方道京泊大小路線については、幹線道路であるため交通量が多いとともに、児童・生徒の通学路にもなっていることは承知している。まずは、横断歩道などを所管する鹿児島県警察公安委員会に対し、現状を報告するとともに地元から要望があることをしっかり伝えたい。併せて、道路管理者である鹿児島県にも情報を共有して参りたい。

次に、災害時の停電対策について。市では、市役所などにポータブル蓄電池20台、非常用発電機29台を備蓄している。災害時における停電の際には、状況に応じて災害対策詰所要員と調整しながら、緊急時の要請に応じて持っているような体制を整えている。

【意見：亀山地区】

五代郵便局前の県道については、以前から機会がある度に要請をしている。6月に中学生が通学中に鹿児島市内の病院まで搬送されるという大きな事故が発生したため、子どもたちの安全安心のために対応を強くお願いしたい。

また、亀山地区コミュニティセンターは年2回程度、避難所として利用されている。昨年8月の台風の際に、早朝様子を見に行ったら停電していた。男性2名、女性3名が避難されていたが、停電していたために空調が使えず、暑い駐車場に停車している自分の車の中で待機している状況であったこともある。亀山校区は宮内、五代と2地域に分かれているが、電線の配線が別々であり、宮内は30分程度で停電が解消した一方で、五代は約8時間停電した。亀山地区コミュニティセンターには太陽光発電も設置してあるため、蓄電池を設置していただくことによって、停電時にも避難者が安心かつ快適に避難していただけるようにしたいため、前向きな検討をお願いしたい。

議題2 コミュニティ協議会への売却予定の公用車の無償譲渡について【可愛地区】

地区コミュニティ協議会では軽自動車を調達し、パトロール車として校区を巡回している。現在使用している車はかなり古く、エンジンのかかりが悪い。バッテリーを新品に交換し使用しているが、そろそろ限界と思われる。そのため、売却予定の軽自動車が無償で譲渡していただきたい。また、他地区でも同様にパトロール車として活用できればありがたいため、検討いただきたい。

回答 物品、土地建物などの市有財産については、原則として、適正な対価なく譲渡を行うことができないことが法令に規定されており、本市ではそのことを踏まえながら、公用車を含む市有財産の売却による処分を進め、歳入の確保を行っている。このことから、売却予定の公用車を無償での譲渡は難しい状況であることを御理解いただきたい。

議題3 愛宕山登山道の整備活動について【育英地区】

育英地区では愛宕山クラブを中心に、愛宕山において階段、ロープの設置を行うなど登山道の整備活動を行い、頂上にはベンチ、展望台なども設置し、参加者が休憩しながら楽しむことができるようにしている。また、他活動とも連携させながら参加者に喜んでいただけるように取り組んでいる。今後は、愛宕山がさらに魅力ある場所となるようにイベントを実施しながら、登山道整備と頂上展望台の景色をより綺麗に眺めることができるようにしたい。そのために樹木の伐採が必要となるのだが、樹木が大きく伐採が難しいことなどの課題があるため、市にも協力いただきたい。

回答 市では、森林の持つ公益的機能の維持・増進と地域住民がより森林に親しむことができる森づくりを推進するため、地区や自治会などが取り組む森林整備などに対して、その経費を助成する事業「里山林等森林整備支援事業」を実施している。今回、御相談いただいている伐採については、当事業の目的に沿った森林整備と考えられる場合、伐採に係る委託費も助成対象となるので、詳細について、今後、御相談させていただきたい。

【意見：育英地区】

晴れた日には、紫尾山や霧島連山を望むことができる。初日の出の御来光の場所でもあるが、頂上からの景色において大きな枝が邪魔となっている。また、大人が15分から20分程度で頂上に登れるので、ぜひ一度足を運んでいただきたい。

4 フリートーク

(1) 地区振興計画について

【意見：育英地区】

愛宕山における登山道整備については、活動を始めてから4年程経過している。これと併せて、中郷池の上池2km、下池2kmの道をつないで8の字型のウォーキングロードとして整備することも目指して活動している。現在、下池において堤防が整備され、堰堤も舗装されたが、愛宕山の登山道の整備への御協力とともに、鶴峯窯跡から上池へ至る道が狭くて危ないので整備していただきたい。また、下池が整備された後、愛宕山クラブで周辺の竹を刈っているが、刈った後の運搬を市に協力していただきたい。

景勝地を8の字に巡るウォーキングロードを完成させたいと頑張っているので、現地視察などしていただきながら御支援いただきたい。

市長

8の字形のウォーキング道路について、今初めて教えていただきましたので、いわゆる市道の担当と里道の担当に具体的に構想と現場を教えてください。それから、刈った後の竹木についても具体的に、どのような状況かということも、職員に教えてください。

(2) 市政の動向について

【意見：育英地区】

育英地区の中郷住宅自治会が約2年前に解散した。そのため、現在、市からの広報紙などは市内の商業施設や公共施設まで取りに行くように方針が示されているが、自治会が解散された場所に住む方々を放っておいて良いのかと思う。

まず、解散した自治会の件数を伺いたい。

また、解散した自治会に対しては市から代表者や残っている公民館宛に広報紙などを届けるようにしてみてもどうか。そして、自治会がなくなると自治会長が果たしていた役割、例えば、高齢者の見守り活動が希薄になるなどの課題がある。市は自治会が解散したところにも目を配る責任があると思うため対策をお願いしたい。

コミュニティ課長

中郷住宅自治会は、令和4年度に解散されている。なお、令和7年に解散した自治会が4自治会あるが、自治会を解散される場合、市に御相談いただき、代表者がいる場合は、代表者に対して自治会文書便と同様に広報紙を届ける仕組みをつくっている。そのため、中郷住宅自治会に代表者がいらっしゃるか及び自治会文書配布を希望するか確認を行いたい。

【追加質問：育英地区】

現在とはされていないと認識しているのだが、既に公民館などに届けていただいているのか。

コミュニティ課

中郷住宅自治会については確認しないと分からない。なお、解散される自治会については聞き取りを行っており、代表者の方への広報紙などの配布を引き続き希望されるのかも案内させていただいている。中郷住宅自治会に対しては、こちらから確認をとるようにしたい。

市長

全国的に人口が減少している。薩摩川内市における自治会人数は最小8人、最大1,700人であり、地区だと最小16人、最大1万4,000人程度である。市内には自治会が500以上、地区は48あるが、人口の偏在は合併当時からある。自治会の存続が困難となるケースも出てきており、組織力の低下により単独での運営が難しい自治会は、話し合いを経て合併という手法を選択している。自治会再編に関する議論があれば、先進事例の紹介や職員によるサポートも実施しているため御相談いただきたい。

(3) その他

【意見：育英地区】

前畑・瀬ノ岡線において、総合運動公園へ右折しようとする車で朝方は渋滞するため、右折レーンを設置するような話を聞いたことがある。現在の計画の進捗状況を教えていただきたい。

古川副市長

検討中である。

【意見：亀山地区】

東花ノ木自治会の公民館には庭に沿って生垣があるが、古くなって隙間ができていく。子どもたちがボール遊びをするのだが、生垣の隙間から通り抜けてしまうことが多い。隣接する道路は開戸橋への抜け道であり、速度を出して通行する車が多く危険を感じている。

自治会の補修工事に関する補助金があるのは知っているが、生垣が対象になっていないと思うので対象としてほしい。

古川副市長

現場を確認したい。

【意見：育英地区】

リサイクルでペットボトルのキャップを分別して集めているが、他の地方自治体では採算が合わないため収集を止めているところが多いと聞く。市として、ペットボトルのキャップはプラごみとして分別収集をすることを方針として示していただいた方が採算的にも良いと思う。ペットボトルのキャップはワクチンに利用されると聞いているが、ワクチンが必要なのであればリサイクルで集めた金額で補助した方が効率的でないかと思うので、検討をお願いしたい。

古川副市長

自治会の皆様に集めていただいているプラスチックの分別方法については、今のところ見直す予定はない。発言にあったペットボトルキャップについては、社会福祉協議会による取り扱いだと記憶している。社会福祉協議会に一度確認はしたい。ただし、お金だけの話ではなく、資源循環活動という視点も含めて検討させていただきたい。

【意見：可愛地区】

可愛小学校の校舎前にあるメタセコイヤや銀杏などの木が、校舎を暗くし、危険性もある。また、秋になると落ち葉が大量に発生するため清掃も大変である。そのため、伐採・剪定をしていただきたい。

また、地区コミュニティ分別収集報奨金についてである。この報奨金の対象者は地区コミュニティ協議会となっており、各地区に還元される仕組みとなっている。しかし、この報償金は地区コミュニティ協議会や自治会ごとに扱い方が異なっている。各自治会には、減量再資源化補助金として、リサイクル推進員に1人当たり1万5,000円、2人だと3万円、3人だと4万5,000円の推進補助金が支給されている。可能であれば、地区コミュニティ協議会の運用資金として、利用できるように統一化できないか。

【意見：可愛地区】

可愛地区で稲作をしている方から以前伺ったことがある話であるが、田んぼに水を引き込むためのポンプが故障してしまい、作付けができない地域があると聞いて

いる。新規でポンプを設置する場合約 500 万円かかり、費用はその地域で稲作をしている人みんなで捻出する仕組みである。日本全国で米不足や後継者不足、耕作放棄地の増加などが問題となっている近年において、米づくりをできるような状況にさせていただくように補助していただきたい。今回の場合は、故障したポンプの修理・新規設置への補助をお願いしたい。

掛田副市長

ポンプについて具体的に場所や状況を教えていただきたいため、お話を伺うようにしたい。